

郵政“非正規レジスタンス”宣言

100年に一度といわれる金融危機の最中、私たちは、第5回ゆうメイト全国交流会を開催した。かつて、政府は、“金融立国”を呼号し、“郵政民営化”をテコに「貯蓄から投資へ」国民を誘導せんとし、財界は、“企業が栄えれば、やがて富のおこぼれに庶民もあずかる”と新自由主義を合理化した。しかし、どうだろうか。雇用をはじめあらゆる分野で規制緩和が進み、結果、今や非正規雇用労働者は1890万人をこえ全雇用者の35.5%に達し、年収200万円以下で働く労働者は2年連続で1000万人を突破している。若者や女性を中心に貧困が固定化し、結婚できない労働者も増えている。年間自殺者も10年連続で30000人を超え、過労死も減るところが増える一方である。

新自由主義のおこぼれは、確実に預かれず、富は一部に集中し、貧困と格差だけが与えられたのだ。

いや、現実には、それどころではない。おこぼれどころか“トバッチリ”だけがきている。大手製造業では、金融危機のあおりを受け、早速、雇用調整をはじめ、派遣労働者の解雇を始めている。人員削減と賃金引き下げが春には広がるとの予測が流れる一方、物価はつりあがり、消費税増税が公言されている。

この国の経済も社会もいま基軸を失い、迷路に迷い込んでいる。公正な分配を実現し労働の尊厳を取り戻し、人間の労働を中心として社会を立て直すときがきている。

南米エクアドルでは、新自由主義によって全労働者の75%が非正規雇用とされた。しかし、そのエクアドルで国民の圧倒的多数の賛成で新憲法が制定され、原則正規雇用とする国づくりが始まっている。われわれも原則正規雇用とパートタイマーと正社員との均等待遇要求を誰に何の遠慮することなく高々と掲げ要求しようではないか。

1890万人の非正規雇用労働者の中に郵政非正規雇用労働者がいる。われわれの運命は日本の全非正規雇用労働者の運命でもある。しかし、「民営化」を契機に、経営側のアメとムチの管理が強まり、労働条件は厳しくなり分断と競争が強まっている。そこに最大労組が経営とともに囲い込みを始めている。だが、その一方でいかに競争をあおり、囲い込みをせんとしても頻発する理不尽な雇止め解雇に対して、また、非人間的な扱いに対して、“私たちはモノではない人間だ”と全国各地で声があがっている。その声は、弱まるどころか、確実に広がり始めている。

新たに発足するNPO法人“ゆうせい非正規労働センター”は、郵政だけではなく関連企業で働くすべての非正規の仲間に関われたセンターとして出発する。相談したくてもできずに苦しむ多くの仲間たち、理不尽な対応に怒り、現状を変えようと必至で頑張る仲間らの“より所”として歩むことを宣言する。われわれは、労働組合の違いを乗り越え、非正規労働者の権利が前進するために協力と共同をひろげ前進するだろう。

“非正規レジスタンス”万歳！

“全国の郵政非正規雇用労働者、団結せよ”

2008年11月2日

第5回ゆうメイト全国交流会参加者一同